



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」は その証言館です。

北風が裸木を揺すっている
気温九度という寒い日の昼下がり
わが家の庭先の黒い土の上を
黒い蟻が一匹そそくさと歩いている
抱きしめてやりたい愛しい気持ちで
見つめていると
彼は固いマントの襟をしっかりと押さえて
枯れた草むらの中に入っていた
あとは木の枝でブランコする
風の子ばかり

十二月の蟻
菊田 守



筑後黒木 甦るふるさと黒木の近現代
黒木町50周年を記念した写真集が、刊行された。(平成17(2005)3月31日) 1864年から1988年にわたる明治、大正、昭和の激動に生きた町をものがたる写真集である。巻頭を飾るフジの花、津江神社のクスに象徴される歴史の流れ、一ページごとに哀歓の時代が投影されている。町はすばらしい記録写真を編みあげたものである。

私の稀観本ノート その12

椎窓 猛

○タンポポの思想～菊田 守 著

天は念じてきた人やモノ、コトに出逢いの縁を恵み給う。
かねて、私は詩人菊田守さんの小さな生き物、昆虫、鳥、草花にいと
おしむ慈しみの眼をそそぐ詩作に心
ひかれるものがあった。

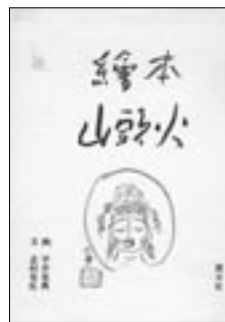
チン チン チン チン
冥土から鉦を叩いている音が
聞えてくる
月が冴え
雲は流れてゆく

コオロギ科の昆虫、秋の夜に枯葉の間で、チンチンと鳴く虫の声。秋の哀傷が胸をひたす。こんな詩を書く詩人に直接出会うチャンスがあるうなどとは思いつかなかったが、去る10月24日、東アジア詩書展、その会議に九州代表として出席したところ、この世話役のひとりが菊田さんであったのである。親しく名刺をかわしあったら、お住まいが黒木町出身の画家吉田民尚さんのアトリエとおなじ中野区鷺宮である。そこで吉田さ

んの話もでて、旧知の人との再会のような話になった。後日、新刊の詩集『タンポポの思想』恵贈して下さった。(自分史図書館長)



○ そうだったのか！アメリカ
池上 彰(ホーム社刊)
池上彰氏はNHK「週刊こどもニュース」で顔なじみの報道記者であった。去る3月退職。11月の一燈大学に講師で迎えたとき、この一冊を頂戴した。講演は「ニュースを読む」興味深く聞いたのは、国によって異なる世界地図。わが国が世界の中心。イギリス、アメリカ、みんな自分の国がまんやかに位置する。宇宙から見た世界地図だけが国境がなく、緑と砂漠の色わけ。小、中学校の先生たちに聴いていただきたい講演であった。この本では、アメリカの素顔が見えてくる。



○ 絵本 山頭火
画 平井光典
文 志村有弘

だまって今日の草鞋穿く

亡き平井光典先生は、筑後市にお住いのお医者さんであったが、画家、作家、俳人と多彩なお顔の先生であった。山頭火の句に添えられた絵はほのぼのとして味わい深い。
志村有弘氏の解説にも妙味が漂っていて、絵と句が賞味される。
踏みわける萩よすすきよ 山頭火



辛うじて岩山下り来し心しづめ乗越浄土の夕景に佇つ
山ひだに雪を残せる御嶽は雲抜き出でてゆつくり暮るる
人の情けつゆ蒙むらぬ高山にうつむき咲けり黒百合の花
何もせず秋の日向に坐す日ありかかる晩年夫は待たざりき

○今の私の生きがいは短歌、その次は、山のぼりである。
歌人有田さんは柳川の生まれだが、昭和18年より長崎
に居住。歌誌「霸王樹」の同人。

青き未練

有田 秀子

○逆かぐや姫
山川 敦子

「書くためには題材が必要で、常にアンテナを張って生活しています。登場していただいた多くの方々に支えられて生活しています。毎日新聞「はがき随筆」に掲載のコラム集。
葉書随筆は252字。山川さんこの集寄贈に「自分史ではないのですが、ほとんど自分の事で、毎日新聞支局長さんのすすめで送らせていただきます」と添えられていた。ありがたく拝受。また続篇を期待申します。

○まぼろしの楽土・満州
やまだ つとむ

“ここは離れて遠き満州の”といった「戦友」の歌を知る人も年々少なくなったかと思われるが、昭和年代、王道楽土の新天地、夢を描いて満州大陸へ渡った人々も少なくはなかった。その思い出が綴られた一冊である。
「あのあこがれの満州の首都『新京』へとうとうやって来たのだ」という到着の実感（昭和13年）からソ連軍進駐「われ敗れたり」の日までがなまなましく描きだされている。

○故郷の花
小郡市郷土史研究会

「謹啓、紅葉の季節、時下ますます清祥の段お慶び申し上げます。会誌『故郷の花』30号と在庫のあるものをお送り致しますのでお納め下さい」とのお便りとともに当事務局佐々木敏夫様よりの惠贈。小郡のこの研究会は昭和40年に第1号発刊、30号の今日まで、小郡の貴重な歴史が発掘されている。日本の医学界の先達高松凌雲顕彰会の活動など教示される資料多々である。



▽『自分史図書館』の存在、設立に対する賞讃、激励のお便りも数々、あらためて感謝の意を記して、これからの充実を期したいものである。
▽「読売」「毎日」の新聞では格別な紹介の記事のおかげで、「自分史図書館」の特色が広く知られ、寄贈の図書が格段に多くなった。取材していただいた記者の方々に厚くお礼申し上げます。
▽では、どうか、よいお年をお迎えください。
館長より

編集掌話
▽発刊以来12号まで、たくさん寄贈図書に接し、世に知らざれなかつた秘話、貴重な人生体験に接したという感慨は深い。

受贈図書紹介 ①

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。あしからずご了承下さい。

蔵書目録ができました
¥160 送料込(郵便切手可)

| | | | | | |
|----------------|--------|------|-------------|----------|------|
| ホップの花は恋の花 | 諸岡 和彦 | 福岡市 | 花子のつばやき | 柿添 花子 | 大川市 |
| 窓の外は曇り空 | 江口ムツ子 | 広川町 | 良妻賢母 | 手嶋 貞夫 | 筑紫野市 |
| 私の人生史パートII | 石橋 利徳 | 筑後市 | 我が輩は六法全書である | 手嶋 貞夫 | 筑紫野市 |
| 坂田不二夫先生遺稿集 | | 八女市 | 一陣の風 | 長田 一臣 | 東京都 |
| 宮永偉文遺稿集 | | 筑後市 | 酔人回顧録 | 檀 健二郎 | 福岡市 |
| 努力の上に花が咲く | 中村ハル自伝 | 福岡市 | 向日葵ひとすじ四十年 | 原口 酉男 | 福岡市 |
| 通りゃんせ | 中嶋 恵子 | 小郡市 | 筑後市の文化財 | 筑後市教育委員会 | |
| 久遠の鼓動 | 橘 佐久子 | 久留米市 | マコの初恋 | 山浦 欣一 | 八千代市 |
| インカの謎に惹かれて | 渡辺 要三 | ブラジル | 随筆集 まなざし | 浜田 蔵人 | 鹿児島市 |
| 僕のこころの窓は110センチ | 伊藤 正史 | 古賀市 | 竜太日記 | 小倉 一郎 | 鹿児島市 |
| 幾山河 | 井出 定之 | 長野県 | 八水先生行伏記 | 平田 善作 | 立花町 |